

市内中小企業景況調査結果（平成30年7～9月）

小幅ながら好転するも、来期は再び悪化するものと予想

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第2四半期（平成30年7～9月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成30年8月15日

- 調査対象時期

平成30年7～9月期状況、平成30年10～12月期見通し

- 調査回答企業数

41社：建設業7社、製造業6社、卸売業7社、小売業10社、サービス業11社（回収率82%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期（30年4～6月期）では全般的に悪化傾向にあったものの、今期（30年7～9月期）の全産業合計の業況D I（前年同期比）では、業種によりバラツキはあるものの小幅ながら好転となった。

先行きについては、一転して悪化するものと予想している。業種別にみると、製造業ではやや好転するものの、卸売業では横這い。サービス業・建設業では悪化するものと予想している。

- 今期(30年7～9月期)の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（30年4～6月期）と比較して6.4ポイントと小幅ながら上昇したものの、D Iでは $\Delta 12.2$ とマイナス域での推移が続いている。

業種別の業況をみると、サービス業では18.2ポイントと大幅に上昇し、D Iでも+18.2となっている。建設業でも14.3ポイント上昇し、D Iでは ± 0.0 まで回復している。卸売業でも同様に12.5ポイント上昇しD Iでも ± 0.0 となっている。小売業では10.0ポイント低下し、D Iでは $\Delta 30.0$ となっている。製造業では9.6ポイント低下し、D Iでも $\Delta 66.7$ の悪化超となっている。

〔売 上〕

全産業で見ると、前期（30年4～6月期）と比較して11.4ポイント上昇し、D Iでは△4.9となっている。

業種別にみると、製造業では38.1ポイントと大幅に常勝しているものの、D Iでは△33.0と悪化超が続いている。サービス業でも27.3ポイントと大幅に上昇し、D Iでも27.3とプラス域となっている。卸売業では10.7ポイントの上昇となっているものの、D Iでは△14.3にとどまっている。建設業では14.3ポイント低下したものの、D Iでは±0.0となっている。小売業では10.0ポイント低下し、D Iでは△20.0となっている。

〔採 算〕

全産業で見ると前期（30年4～6月期）と比較して、4.2ポイントと小幅ながら上昇しているものの、D Iでは△22.0とマイナス域での推移が続いている。

業種別にみると、サービス業では18.2ポイントの上昇となり、D Iでも18.2となっている。卸売業では14.3ポイント上昇したものの、D Iでは△14.3とマイナス域で推移している。小売業では±0.0と変化なく、D Iでは△30.0で推移している。建設業では14.2ポイント低下し、D Iでは△57.1となっている。製造業でも7.1ポイントの低下となり、D Iでは△50.0となっている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（30年4～6月期）と比較して、0.5ポイントの低下とほぼ横ばいで、D Iでは△9.8となっている。

業種別にみると、サービス業では9.1ポイント上昇し、D Iでも18.2とプラス域で推移している。建設業では14.3ポイント上昇しているものの、D Iでは△28.6とマイナス域での推移が続いている。卸売業では14.3ポイントの低下となり、D Iでは△14.3となっている。製造業では2.4ポイントと小幅ながら低下し、D Iでは△16.7となっている。小売業では10.0ポイント低下し、D Iでは△20.0となっている。

●来期(30年10～12月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期（30年7～9月期）と比較して12.2ポイント低下し、D Iでは△24.4とマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、製造業では16.4ポイント上昇するものの、D Iでは△50.0と悪化のまま推移するものとみている。卸売業では変化なく、D Iでも±0.0で推移する見込み。小売業でも同様に変化ないものの、D Iでは△30.0と悪化のままの横ばいで推移するものとみている。建設業では28.6ポイント低下し、D Iでは△28.6まで低下する見込み。サービス業でも36.4ポイントと大幅に低下し、D Iでは△18.2とマイナス域に転じるものとみている。

〔売 上〕

全産業で見ると、今期（30年7～9月期）と比較して14.6ポイント低下し、D Iでは△19.5までマイナス幅が拡大する見通しとなっている。

業種別にみると、卸売業では14.3ポイント上昇し、D Iでも±0.0まで戻す見込みとなっている。サービス業では27.3ポイント低下するものの、D Iでは±0.0にとどまるものとみている。小売業では10.0ポイントの低下となり、D Iでは△30.0となっている。建設業では28.6ポ

イントと大幅な低下となり、D I では△28.6 となるものとみている。製造業では 16.7 ポイント低下し、D I では△50.0 まで落ち込みものとみている。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期（30 年 7～9 月期）と比較して 7.3 ポイント低下し、D I では△29.3 とマイナス域が拡大する見通しとなっている。

業種別にみると、卸売業では 14.3 ポイント上昇し、D I でも±0.0 まで戻す見通しとなっている。建設業でも 14.2 ポイント上昇するものの、D I では△42.9 にとどまる見込み。小売業では変化ないものの、D I では△30.0 とマイナス域での横ばいとなっている。製造業では 16.7 ポイント低下し、D I では△66.7 まで悪化するものとみている。サービス業では 36.4 ポイントと大幅に低下し、D I では△18.2 とマイナス域に転じるものとみている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期（30 年 7～9 月期）と比較して 10.2 ポイント低下し、D I では△20.0 とマイナス幅が拡大するものと見込んでいる。

業種別では、卸売業では、14.3 ポイント上昇し、D I でも±0.0 まで戻す見込みとなっている。建設業では±0.0 と変化ないものの、D I では△28.6 と悪化超で推移するものとみている。サービス業では 27.3 ポイントと大幅に低下し、D I でも△9.1 とマイナスに転じるものとみている。小売業では 10.0 ポイント低下し、D I でも△30.0 まで悪化している。製造業では 23.3 ポイントの低下となり、D I でも△40.0 とマイナス幅が拡大するものとみている。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期（30 年 7～9 月期）は 17.1%の実績となり、前年同期（29 年 7～9 月期：22.5%）や前期（30 年 4～6 月期：23.3%）と比較するとやや沈静化している。業種別で見ると、建設業や卸売業では 28.6%比較的活発に行われたが、サービス業では 0.0%と沈静化する見通しとなっている。来期については全体で 24.4%と今期と比較しやや活発化するものとみている。

●経営上の問題点

建設業では、前回に引き続き「材料価格の上昇」が 1 位となっている。2 位には「請負単価の低下・上昇難」と「従業員の確保難」が入り、3 位には前回 2 位の「熟練技術者の確保難」となっている。製造業では前回と同様に「需要の停滞」が 1 位となり、2 位には前回 3 位の「原材料価格の上昇」が入り、3 位は「製品ニーズの変化への対応」となっている。卸売業では前回 2 位の「仕入単価の上昇」が 1 位となり、前回 1 位の「購買力の他地域への流出」が 2 位に後退し、3 位は変化なく「店舗の狭隘・老朽化」となっている。サービス業では、前回 2 位の「熟練従業員の確保難」が 1 位となり、2 位は前回と同様に「従業員の確保難」が入り、3 位には新たに「利用料金の低下・上昇難」が入っている。

業 種 別 D I 値 表 平 成 30 年 7 ～ 9 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資金繰り			採算(今期経常利益)
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
全産業	41	△18.6	△12.2	△24.4	△16.3	△4.9	△19.5	△26.2	△22.0	△29.3	△9.3	△9.8	△20.0	12.5
建設業	7	△14.3	0.0	△28.6	14.3	0.0	△28.6	△42.9	△57.1	△42.9	△42.9	△28.6	△28.6	△14.3
製造業	6	△57.1	△66.7	△50.0	△71.4	△33.3	△50.0	△42.9	△50.0	△66.7	△14.3	△16.7	△40.0	△20.0
卸売業	7	△12.5	0.0	0.0	△25.0	△14.3	0.0	△28.6	△14.3	0.0	0.0	△14.3	0.0	42.9
小売業	10	△20.0	△30.0	△30.0	△10.0	△20.0	△30.0	△30.0	△30.0	△30.0	△10.0	△20.0	△30.0	0.0
サービス業	11	0.0	18.2	△18.2	0.0	27.3	0.0	0.0	18.2	△18.2	9.1	18.2	△9.1	36.4

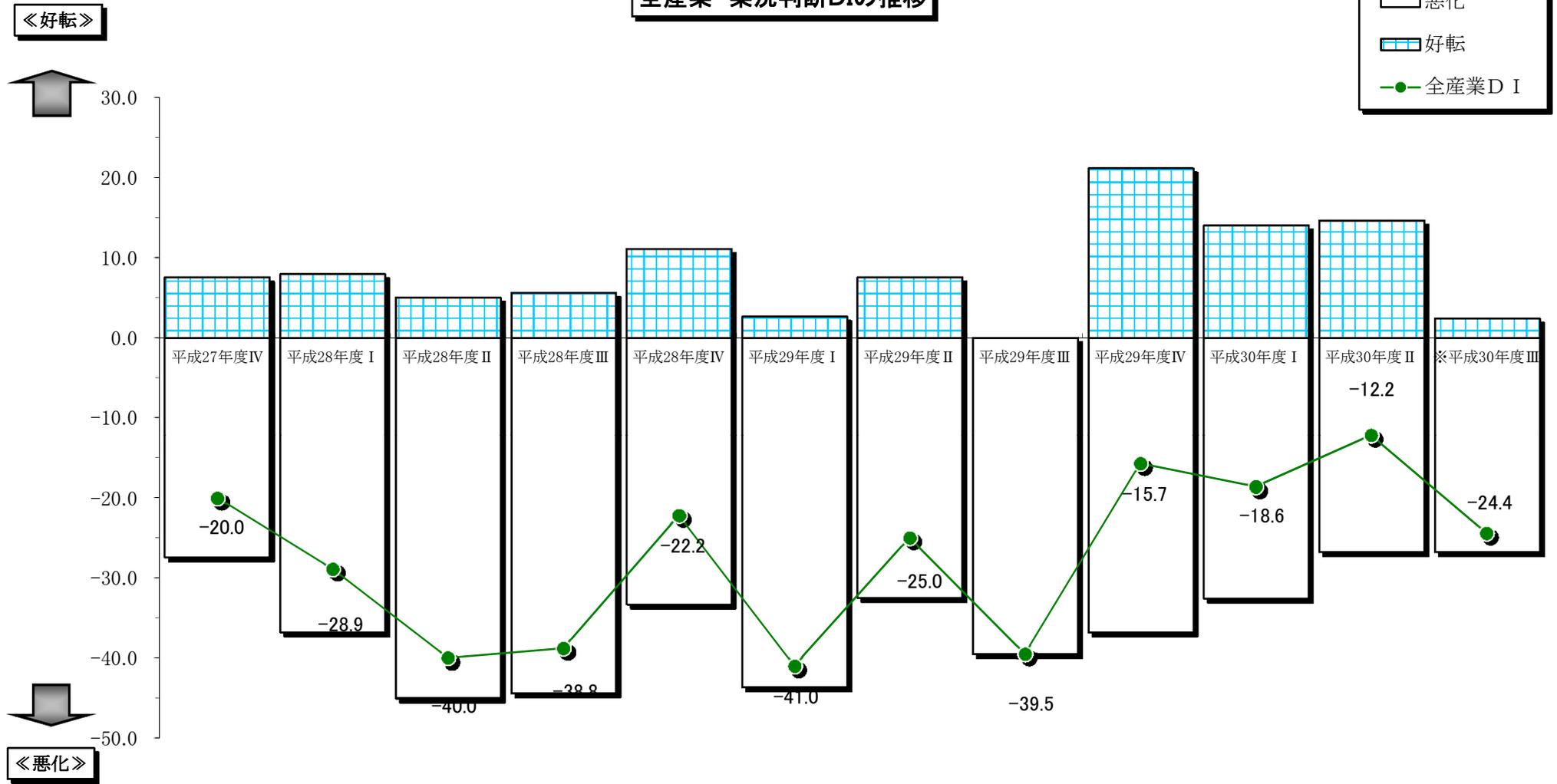
- ① 前年同期(平成29年4月～6月)と比較した前期(平成30年4月～6月)の状況
 ② 前年同期(平成29年7月～9月)と比較した今期(平成30年7月～9月)の状況
 ③ 前年同期(平成29年10月～12月)と比較した来期(平成30年10月～12月)の見通し

直面している経営上の問題点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	材料価格の上昇	請負単価の低下・上昇難／従業員の確保難	熟練技術者の確保難
製造業	需要の停滞	原材料価格の上昇	製品ニーズの変化への対応
卸売業	仕入単価の上昇	需要の停滞	大企業の進出による競争の激化／新規参入業者の増加／商品在庫の過剰／販売単価の低下・上昇難／従業員の確保難
小売業	消費者ニーズの変化への対応	購買力の他地域への流出	店舗の狭隘・老朽化
サービス業	熟練従業員の確保難	従業員の確保難	利用料金の低下・上昇難

設備投資を今期実施した 17.1 %
 設備投資を来期計画している 24.4 %

全産業 業況判断DIの推移



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成29年10～12月）と比較した来期（平成30年10～12月）の見通し